

僕が届けているものは…

ペンネーム：琢磨 (takumaro)

深夜1時に目覚ましが鳴る。眠い目をこすり、寝ぼけながら、身支度をして、徐々に目を覚まし、自転車を漕ぎ、気が付けばもう何年も務めている新聞店へと向かう。雨の日も。風の日も。雪の日も。暑い夏の日も。そして、今日も。

いつものように情報の束をバイクに載せる。

「政治情勢、経済の動向、様々なコメンテーターの意見、国際情勢、市場の動向、最新の科学技術、アスリートの活躍、…」

ふと思う。

「僕が届けているのは、夢！？希望！？明るい未来！？」

あいつが、ニヒルな笑みを見せ

「現実！悪夢！！そして、絶望！！！」

と応える。僕がムッとすると、あいつが、こう質問を僕にぶつけて来る。

「届けているものは、『真実』なのかな？」

そして、再びあいつは、ニヒルな笑みを僕に見せる。

いつものように情報の束を、そのポストに入れる。僕は、ただ、その情報を届ける。この世界の、ありのままを、今日もまた届ける。そして祈る。

「馬鹿で、マヌケで、寝惚けていて、盲、ではないと良いよな…」

あいつは、本当に言葉を選ばない。困った者だ。でも、現実と照らし合わせて考えると…

僕が届けている物が、せめて『真実』であるという事を祈る。僕の届けている物を受け取る人が、せめて『真面 (まとも)』である事を祈る。

「大丈夫だって！少なくとも『現実』を届けているから！」

あいつは、僕を慰めてくれたつもりのようだ。まあ、いずれにしても、僕に選択肢は無い。

この世界の、ありのままを、今日もまた届ける。そして僕は祈る。

The article was presented by 『TAKUMARO' S FACTORY』,  
<https://www.factory-takumaro.com/>

© takumaro 2019.03.16, Printed in Japan.